

日本産業衛生学会 北陸甲信越地方会ニュース

発 行 所：日本産業衛生学会 北陸甲信越地方会事務局 〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学 1-1
金沢医科大学医学部衛生学講座 TEL 076-218-8101 FAX 076-218-8214 発行責任者：地方会長 櫻井 勝



第 69 回北陸甲信越地方会総会 富山開催にあたって

日本産業衛生学会北陸甲信越地方会 富山県常任理事
富山大学学術研究部医学系 公衆衛生学講座 教授

吉岡 英治

本年、第 69 回日本産業衛生学会北陸甲信越地方会総会を、令和 2 年以来 6 年ぶりに富山の地にて開催する運びとなりました。当番事務局長として、会員の皆様をここ富山にお迎えできますことを、大きな喜びと感じております。また、前日企画の開催にあたりましては、産業医部会および産業看護部会の諸先生方にご尽力いただきましたことに深く感謝申し上げます。ぜひ総会および前日企画に、多くの皆様にご参加いただけますよう心よりお願い申し上げます。

私事で恐縮ではございますが、このたび富山県常任理事として本総会の事務局長を拝命いたしました私は、令

和 7 年 10 月に富山へ赴任したばかりでございませう。長年過ごした北海道におきましても北海道地方会に所属し、2008 年の全国学会主管時には事務局長を務めるなど、本学会の活動には深く携わってまいりました。しかしながら富山県ならびに北陸甲信越地域における産業保健の歩みや現状につきましても、未だ学びの途上にございませう。

このような背景から、まずは私自身がこの地の産業保健の実情を深く学び、知見を共有したいという強い思いのもと、午後の特別講演を企画いたしました。

藤澤貞志先生には「富山県における産業医活動」と題し、地域における産業医活動の歴史的変遷と展望についてご講演いただきます。また中林美奈子先生には「富山産業保健総合支援センターが行う産業看護職組織化支援の実際」と題し、富山県における産業看護職支援や実践的な取り組みの現状をご講話いただく予定でございませう。

社会情勢の不透明感が増し、異常気象や災害対策など現代社会を取り巻く課題が山積する今日において、地域の産業保健が果たすべき役割は一層増しております。本地方会総会が、私たち産業保健の専門家にとって、足元から日常の取り組みを今一度見つめ直し、未来に向けた確かな歩みを進める実り多き機会となりますことを切に願っております。

特別企画（ダイバーシティ推進委員会 報告）



北陸甲信越地方会選出委員
セイコーエプソン株式会社 保健師

川上 智子

① ダイバーシティ推進委員会活動報告（オンラインセミナー）

学会本部のダイバーシティ推進委員会（非常設）は、2026 年 1 月 17 日（土）、オンラインセミナー「学会活動を知ろう！第 4 弾 東海・北陸甲信越地方会」を名古屋市のウインクあいちにて対面とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。当日は、会場参加 11 名、オンライン参加 43 名の計 54 名の参加がありました。本セミナーは、委員会活動の一つとして、各地方会の特色を紹介するシリーズ企画の一環として実施しており、2025 年 7 月に開催した九州地方会に続くものです。

第 1 部は地方会活動紹介を行いました。東海地方会の山本誠さん（ヤマハ株式会社）より、東海地方にまつわるクイズを交えながら、地方会の特徴として、①ちょうど良い規模感、②まとまりの良さ、③多様な年代・職種が活躍できる自発的な活動が挙げられ、地方会理事を中心に実施している各種企画についてお話がありました。続いて、北陸甲信越地方会の水木将さん（信州大学医学部 小児環境保健疫学研究センター）より、地方会の活動状況や地方会総会の開催前日に実施する多彩な企画（職場巡視体験・女性の健康問題セミナー・360 度動画を用いた体験学習など）を行うことで、多職種が参加しやすい工夫について紹介がありました。両地方会の特色が具体的に示され、参加者にとって地方会活動への理解を深める機会となりました。第 1 部後半では、参加者全員による交流タイムを設け、地域や職種を越えて「学会に参加することで得られたもの」をテーマに意見交換を行いました。

第 2 部は会員活動紹介として、産業保健看護部会より室野奈緒子さん（石川県立看護大学）にご登壇いただき、研修会の講師を担当したことをきっかけに学びが広がった事例紹介や学会は地域・職種・経験に関わらず参加でき、小さな関わりも大切にされる場であり、出会いを通じて学びが広がっていくことを伺いました。産業衛生技術部会より梅村朋弘さん（中京大学）から、専門職としての実践と具体的な学会活動について報告や前事務局長の経験から地方会における多様性の紹介がありました。その後、質疑応答とあわせて、東海・北陸甲信越地方会の「良いところ」をテーマとした座談会を実施しました。

最後に、斉藤政彦東海地方会会長および櫻井勝北陸甲信越地方会会長よりメッセージを頂き、学会活動の魅力を再認識するとともに、今後の積極的な参加を促す有意義な機会となりました。

② 委員会フォーラム 2026 年 5 月 30 日（土）14:00～16:00 （大阪国際会議場 6F「小ホール」）

「日本産業衛生学会ダイバーシティ推進委員会

8 年の軌跡とこれから」



2018 年に発足し、今年度で 9 年目を迎えることを受け、これまでの委員会活動を振り返るとともに、10 年間の非常設委員会としての総括となる今後 2 年間の方向性について、理事長および企画運営委員長を交えて議論を深めました。

まず、委員長より、委員会発足までの経緯や活動内容について報告がありました。本委員会は、2016 年に発足し

た男女共同参画推進小委員会を発展的に引き継ぐ形で、女性に限らず若手といった会員の多様性を考慮し、高いモチベーションを持って学会活動に参加できる方策の検討を目的に活動しています。これまでの活動として、子育て世代の学会参加ヒント集の作成、学術集会でのフォーラム開催、委員会主催のオンラインセミナー、日本医学会連合等外部団体との連携などが報告されました。

続いて、武林亨理事長（慶應義塾大学）より、設立 100 年を迎える当学会の重点活動の基盤となる「国内外のすべての働く人を対象とした産業衛生推進」を進めるためには、人材の育成と多様化も重要であり、9,500 名を超える学会員が自由で自律的な活動を行えるようにするためには、本委員会の活動への期待が大きいとのお話がありました。あわせて、改訂された産業保健専門職の倫理綱領に触れられ、項目 9（多様性、公正性、包摂性の尊重）は特にダイバーシティと関連が強いとのお話がありました。

最後に、林朝茂第 99 回総会企画運営委員長（大阪公立大学）より、本総会および近畿地方会におけるダイバーシティ推進の取り組みについて報告がありました。総会では、産業保健の現場で直面する課題をさまざまな企画の中に取り入れた結果、多層的な多様性に対応するプログラムとなり、これは産業保健における実践的なダイバーシティ&インクルージョンの一形態と位置づけられるとのお話でした。また、多職種協働によるインクルージョンを実践するため、セッションを複数日にわたって配置し、若手学会員が学会期間を通じて参加しやすい環境を整えたことも報告されました。

講演に続き、意見交換が行われました。会員の学会参加促進は委員会活動のみでは限界があり、学会内の各組織が連携することで実現可能になるとの意見が出されました。また、学術集会を地方会で開催する際には、地域の特性や多様な職種の意見が十分に反映されているか、業務負担が一部に偏っていないかなどを踏まえ、多くの学会員が運営にも参画したくなるような学会運営のあり方が大切であるとの意見も出されました。

結びに、委員会がさまざまな課題に手探りで取り組んできたこと、そして会員による活動報告や情報発信が他の会員の参加意欲向上につながっていることが確認されました。今後の委員会活動への期待と方向性がより明確になるフォーラムとなりました。

■2026 年度委員会活動

- ・第 99 回総会（大阪）委員会フォーラム：「ダイバーシティ推進委員会 8 年の軌跡とこれから」（5 月 30 日）
 - ・オンラインセミナー：「地域保健・産業保健 連携研修：複合災害（自然×化学）の初動 120 分と情報共有」を第 70 回中国四国地方会合同産業衛生学会と共催（7 月 25 日）
 - ・第 36 回全国協議会（倉敷）委員会フォーラム：「4 部会の会員による活動報告」（11 月）
- 委員会は、会員のダイバーシティ推進のために活動を行っています。企画へのご参加をお待ちしています。

第 69 回北陸甲信越地方会（富山）開催告知

第 69 回日本産業衛生学会北陸甲信越地方会は、下記の通り開催予定です。
皆様のご参加を心よりお待ちしております。

なお、本年度は学会運営の効率化、予算の都合上、講演会要旨集はホームページ上の公開のみとさせていただきますのでご承知おきください。

第 69 回日本産業衛生学会北陸甲信越地方会

開催日時：2026 年 10 月 18 日（日曜日） 10：00 ～ 15：30

開催場所：富山市民プラザ 3F マルチスタジオ（〒930-0084 富山市大手町 6 番 14 号）

学 会 長：村上 美也子（富山県医師会長）

主 催：日本産業衛生学会北陸甲信越地方会

共 催：富山県医師会、富山産業保健総合支援センター

日本産業衛生学会北陸甲信越地方会産業医部会・産業保健看護部会
産業衛生技術部会・産業歯科保健部会

プログラム

10:00-12:00 一般演題

12:00-12:30 地方会総会

13:30-14:30 特別講演 1「富山県における産業医活動」

藤澤医院 藤澤 貞志 先生

14:30-15:30 特別講演 2「富山産業保健総合支援センターが行う産業看護職組織化支援の実際」

富山産業保健総合支援センター 中林 美奈子 先生

前日企画 ワークショップ 「ストレスチェック後の職場環境改善を進めていくには」

開催日時：10 月 17 日（土曜日）14:30～16:30

開催場所：富山県民会館 7F 701 号室

詳細は、日本産業衛生学会北陸甲信越地方会のホームページでも公開しています。
ぜひご確認ください。

連絡先：第 69 回日本産業衛生学会北陸甲信越地方会総会事務局
〒930-0194 富山県富山市杉谷 2630 富山大学医学部公衆衛生学講座
TEL：076-434-7276 FAX：076-434-5023
E-mail：kouei@med.u-toyama.ac.jp

地方会事業から

富山県の産業医会

令和 3 年の富山県の事業所は 4 万 8 千社以上、従業員は 50 万 3 千人以上である。従業員 50 人以上の事業所は 1500 社以上（4%）、従業員数は約 20 万人（40%）である。

約 40%の働く人の安全衛生をみる産業医は 9 割の事業所で選出され、衛生管理者は 8 割になる。体制的には整備されている。（平成 29 年）

日医認定産業医が平成 2 年に発足し、高岡市医師会は平成元年から 4 年まで労働衛生相談医制度モデル事業を行い、30 名の相談医による中小企業 187 社の安全衛生・健康相談を行ない成功裡に終了した。高岡は鋳物工場をはじめ、化学・機械・パルプ工場等あり、代表的な高工業都市であり、その企業組合と連携して、年に数度事例検討を行い、現在も続いている。地域産保センター（以下、地産保）の登録産業医も 50 名を超えている。

平成 4 年認定産業医を会員とし産業医会が発足し、時宜にあった研修会、特に化学物質管理や作業環境管理、メンタルヘルスの復職や就業前学習などをテーマに行なっている。昭和 61 年に発足した労働安全衛生コンサルタント会（現日本労働安全衛生コンサルタント会富山支部）は医系工学系両者で衛生工学的な職場改善めざして活動している。

ダム・発電所・鋳物工場・砂防工事・トンネル現場・共立大学・福祉施設などで見学、または安全衛生診断をし、県医師会や郡市医師会の研修、実地研修、事例検討会のアドバイスを行っている。特に北陸三県合同の研修会開催などで産業医単位の取得に寄与している。

2 年ほどの準備期間を経て平成 18 年に発足した産業看護研究会は産業看護セミナーなどを積極的に行ない健康診断の前後の面接指導や食事運動などの生活習慣病対策、メンタルヘルスにおける相談など身近で实际的な活動を行なっている。

疫学的手法を駆使して説得力のある指導と親しみやすさが効力を挙げている。保健所・健診機関のスタッフなども参加し、和気あいあいと年に数度の学習発表

をしている。

労働局、防災団体、大学が経糸なら、基準協会や医師会、総合支援センター、これら 3 つの団体は横糸になって産業保健を進めているといえる。事実スタッフは重複しており、意思疎通は充分である。

富山といえばイタイイタイ病であり 2012 年に県立イタイイタイ病資料館ができている。

医師会も鏡森先生、青島先生の講演を支援し、また研究者の労苦に感謝している。

平成 9 年に富山で行なわれた日本産業衛生学会は職域と環境の調和をめざす学会であり、平成 12 年に行なわれた産業医・産業看護協議会も産業と危機管理をテーマにした。

公衆衛生学や疫学は社会医学と自然科学、臨床、または社労士や法律家、産業現場の人を交えた総合的な活動と思い、また富山大には社会医学実習や富山スタディ、エコチルなどの研究成果もある。

そして人情と胆力が必要である。じん肺の書類を書くときにつくづく思う。もっと適切な表現はないかと。産業が真に幸福とつながるように願いたい。50 人未満の企業や労働者に対しては、昭和 47 年以降手づかずである。

危ない仕事もしているだろうか。

（文責 富山県産業医会会長 藤澤 貞志）



私たちの職場 日置電機株式会社 保健師 仲佐 美鈴

日置電機株式会社は、1935 年創業の電気計測器メーカーです。開発から生産、販売・サービスまで一貫して手がけており、自動車、インフラ、環境・エネルギーなどの幅広い分野で活用されています。本社は長野県上田市にあり、国内外に多数の販売拠点やグループ会社を展開しています。HIOKI グループ全体の社員数は約 1,200 名です。

本社は、社員が植樹した「HIOKI フォレストヒルズ」と呼ばれる自然豊かな環境に囲まれています。この恵まれた環境のもと、「人間性の尊重」「社会への貢献」という理念を大切にしながら、社員一人ひとりが健康に関心を持ち、自主的・自律的に健康管理ができるようサポートしています。また、社員がいきいきと働ける職場づくりにも積極的に取り組んでいます。

健康管理業務は、保健師 1 名と嘱託産業医 1 名が担当しています。さらに、外部の心理士やキャリア相談員が定期的に訪問し、社員のメンタルヘルスやキャリア形成をサポートしています。

グループ会社である日置フォレストプラザには、管理栄養士とスポーツプログラマーが在籍しており、食事や運動は、連携して支援を行っています。具体例としては、社員寮の朝食を無料化、社員レストラン昼食では、無料のサラダバーを設置して野菜を摂りやすくするなど、健康的な食生活をサポートしています。また、県主催のウォーキングイベントへの積極的な参加や、社内のジム・スタジオを併設した健康増進センターを朝 6 時から夜 21 時まで開放し、社員が自由に利用できるようにしています。

さらに、10 月を全社の「衛生月間」と定め、健康意識向上のための取り組みを行っています。社員が健康に「興味を持ち」「楽しく」自身の健康づくりに取り組めるよう、健康づくり推進委員とともに意見やアイデアを出し合い、健康イベントの企画・運営を行っています。今年は、足指の力を測る体験型イベントや健康ポイントラリーなどを予定しています。今後も社員の健康リテラシー向上を目指し、積極的に活動を推進していきます。



会員の取り組み



新潟太陽誘電株式会社

専属産業医

木村 公紀

当社は、積層セラミックコンデンサという電子部品を製造する製造拠点としての子会社です。私は、新潟県内では数少ない専属産業医として 2022 年より着任し、早くも 5 年が過ぎようとしております。この場では、健康経営を通じたグループ会社間の変化と社内の変化の 2 つの変化についてご報告をさせていただきます。

当社では、2022 年より健康経営開始に向けた準備

を進め、2023 年 1 月より社長による健康経営宣言の発信のもとで活動を開始しました。親会社では数年前より既に活動が始まっておりましたが、まだ子会社にまで活動範囲を広げていない状況であり、親会社とグループ会社間で健康に関する交流は決して多くはありませんでした。しかし、子会社として自律的に健康経営を開始してからは、親会社との交流はもちろんのこと、他のグループ会社の担当者が上越まで訪れて意見交換を行うなど交流が生まれていき、2025 年には全ての国内グループ会社で健康経営の活動が開始となりました。当社の取り組みは、グループ全体の変化を生み出した要因の一つに過ぎませんが、子会社の立場から変化のきっかけづくりに貢献できたことは貴重な経験であったと感じております。

健康経営の推進に伴う社内での変化としては、少しずつではありますが、健康風土の醸成が進みつつあることを実感しております。例えば、健康経営を開始してから年に 2 回のウォーキングイベントを実施していますが、第 1 回の参加率が 12%であったのに対し、直近では 20%まで上昇し、参加者の平均歩数も 7237 歩から 9627 歩にまで増加しております。また、ストレスチェックの集団分析を活用した『いきいき職場改善活動』を通じ、総合健康リスク値やワークエンゲイジメントに関しても開始前と比べ改善が進んでおります。

健康風土の醸成は簡単に向上できるものではありませんが、継続していくことが何よりも重要だと思っておりますので、引き続き粘り強く各活動を進めて参りたいと思います。

新人会員紹介



西日本旅客鉄道株式会社
金沢健康増進センター

古荘 志保

4 月より JR 西日本の産業医として勤務しております、古荘と申します。前職は金沢市立病院の呼吸器内科で、特に気管支喘息、感染症、睡眠時無呼吸症候群

などの診療に携わってきました。その中で、若い世代においても生活習慣病を合併している方が多いことを実感しました。従業員が長く健康に働き続けられるよう、生活習慣の改善を支援し、薬物治療など本格的な治療を要するまでの期間をできるだけ延ばしていくことも、産業保健の重要な役割だと考えております。

また、同病院で産業医を務めた経験はありましたが、産業保健の職務や対応について十分に理解しきれていなかったと感じております。現在は、労働衛生の 5 管理を中心に、学ぶべきことの多さを日々実感しております。いまだ駆け出しで、理解が追いついていない点も多い状況ではありますが、産業衛生学会の先生方にご指導を賜りながら、鉄道の安全と従業員の健康に少しでも貢献していきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

事務局より

選挙の日程

○本年度は日本産業衛生学会の選挙年度です。有権者の皆様は期間内での投票をお願いいたします。投票の告知は地方会ホームページ、メールにて行っております。

有権者の皆様は、必ずご確認をお願いいたします。

【代議員選挙・地方会長選挙 選挙日程】

9 月 18 日（金）～9 月 25 日（金）

模擬選挙

10 月 1 日（木）～10 月 13 日（火）

代議員選挙・地方会長選挙

10 月 14 日または 15 日

開票

10 月 18 日（日）

総会にて代議員・地方会長の公表

理事会報告

○2026 年度北陸甲信越地方会 常任理事会

日時：2026 年 6 月 20 日（土）

会場：長野東急 REI ホテル（長野市）

今後の行事案内

○2026 年度北陸甲信越地方会 理事会（予定）

日時：2026 年 10 月 17 日（土）

会場：富山地鉄ホテル「アルシェフ」（富山市）

○第 69 回北陸甲信越地方会 学会・総会（予定）

日時：2026 年 10 月 18 日(日)

会場：富山市民プラザ

内容：一般演題発表、特別講演

○日本産業衛生学会 中小企業安全衛生研究会

第 60 回全国集会

会期：2026 年 12 月 12 日（土）10:00～16:40

会場：福井市地域交流プラザ（AOSSA）601 会議室
（Web 併用）

内容：一般演題発表、教育講演、シンポジウム

編集後記

この度、北陸甲信越地方会の地方会ニュース第 19 号を発行することができました。本号では、第 69 回日本産業衛生学会北陸甲信越地方会総会の開催告知、ダイバーシティ委員会の活動報告、各県の皆様の活動等をお知らせいたしました。発行に際してご協力、ご尽力いただきました先生方へ改めて感謝申し上げます。

今年度の地方会総会は富山県富山市で開催されますので、会員の皆様にはぜひ足をお運びいただき、ご参加をお願いさせていただければ幸いです。あわせて、日本産業衛生学会北陸甲信越地方会の発展のためにぜひ皆様のお力添えを引き続きいただければ幸いです。

今後も地方会員の皆様の活動や取り組みを広報して参りたいと思います。ご意見やご感想などございましたら編集委員までお寄せ頂けると幸いです。

編集委員（五十音順）

編集委員長：塚原 照臣

副編集委員長：西澤 依小

編集委員：遠藤 和男、奥島 華純、小坂 智恵子、
高山 英之、角田 ひろみ、松永 康弘、
丸山 猛士、室野 奈緒子、吉岡 英治

事務局：水木 将、室野 奈緒子

